

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団	
施 設 名	新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）	
助成対象活動名	新潟ファイブ・リングス・プロジェクト	
助 成 期 間	5	年間
内 定 額	59,039	(千円)

事業概要

(1) 事業計画の概要

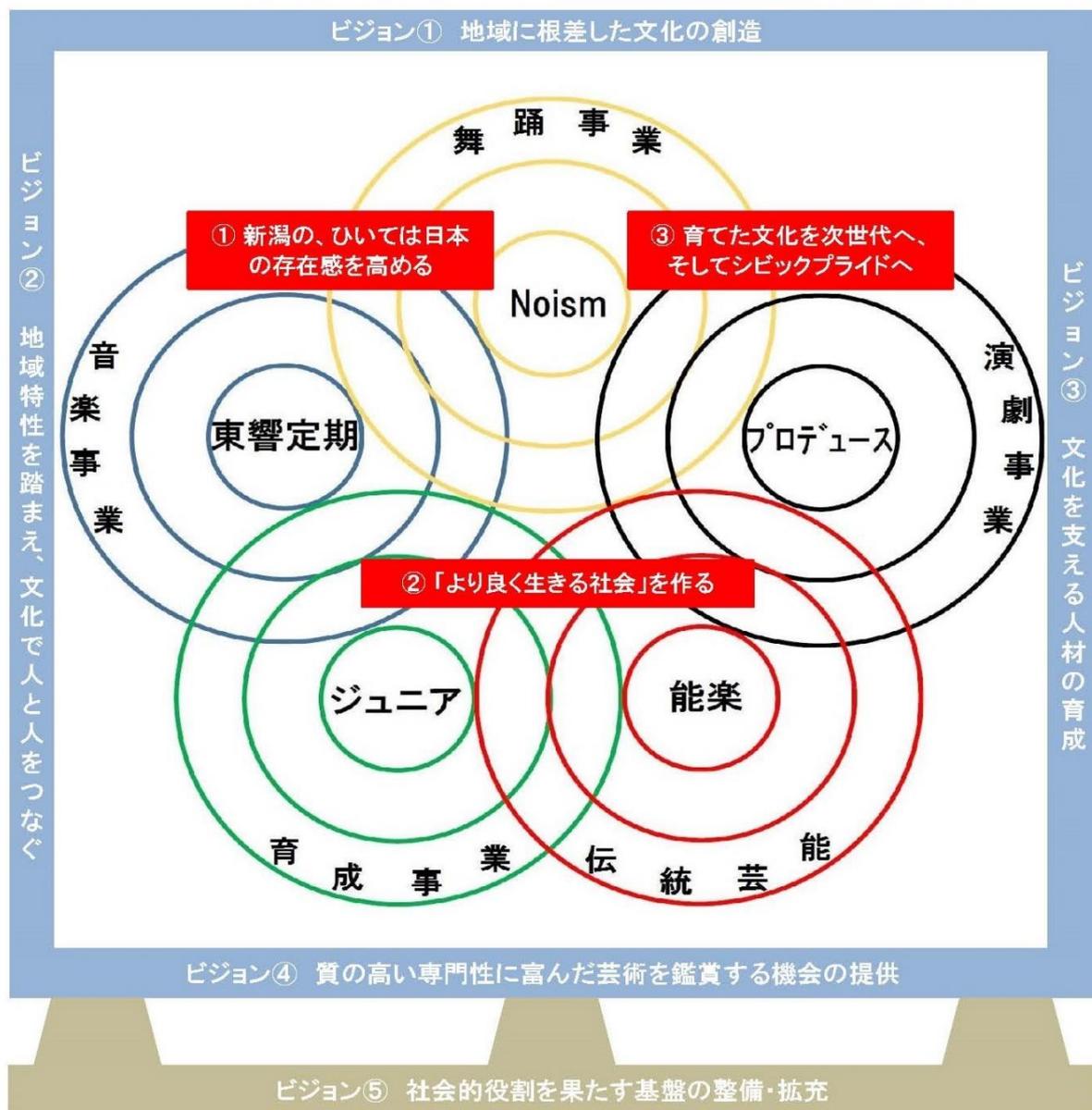
全体図（概念図）

（事業名）新潟ファイブ・リングス・プロジェクト

りゅーとぴあ 3つの社会的役割

- ①新潟から全国へ 世界へ発信
- ②芸術文化を通じて「生きる力」を育む
- ③新潟の文化を次世代へ継承し、市民の誇りにつなげる

社会的役割につながる **最終アウトカム**



(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東京交響楽団 新潟定期演奏会 (第107~112回)	平成30年11月4日	ジョナサン・ノット(指揮)東京交響楽団(管弦楽)ブラームス:ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 op. 83 他	目標値	8,100
		コンサートホール		実績値	8,525
2	Noism事業	平成30年7月6日	演出振付:金森穰 音楽:プロコフィエフ 衣裳:YUIMA NAKAZATO 出演:Noism1、SPAC(静岡県舞台芸術センター) 他	目標値	5,026
		劇場		実績値	5,577
3	能楽鑑賞会	平成30年5月12日	能「道成寺」宝生和英(シテ方宝生流・二十世宝生宗家)仕舞「羽衣クセ」大友順(シテ方宝生流) 他	目標値	534
		能楽堂		実績値	874
4	ジュニア 音楽教室事業	平成31年3月30日	永峰大輔(オーケストラ合奏指揮)シベリウス/交響詩「フィンランディア」 他	目標値	3,757
		コンサートホール		実績値	3,275
5	バリアフリー対応 ※事業番号1で実施			目標値	
				実績値	
6	多言語対応 ※事業番号3で実施			目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	17,417
				実績値	18,251

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

本助成金の事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」は、計画策定時において「ミッション、ビジョン、地域の特性等」と「アウトカム」が関連する構造で組み立てを行ったうえで、「3つの最終アウトカム」を発現させるために「13の中短期アウトカム」と「2つの内部変化」を設定している（エビデンス資料1）。

この事業計画はいわば設計図であるが、アウトカムの発現、つまり設計図の具現化のために、5年計画で順次取り組みを行っており、現時点で遅延や齟齬は生じていない。

平成30年度の取り組みの一例をあげれば、最終アウトカムである「②：より良く生きる社会を作る」を達成するための中短期アウトカムである「アウトリーチ手法の普及」に取り組んだ。新潟県の面積は全国5番目と広くアウトリーチは文化を県下に届けるために有効な方法だが、ステークホルダーである「県内公立文化施設職員や音楽家」が35名も参加し、大きな効果があった（同2）。

また、最終アウトカム「①：新潟の、ひいては日本の存在感を高める」「③：育てた文化を次世代へ、そしてシビックプライドへ」にも【有効性】【創造性】の自己評価記載のとおり取り組み、効果を上げている。

更に、事業計画上関連しているミッションとアウトカムは、国の文化芸術立国の方針を受けて策定された新潟市文化創造交流都市ビジョンとも密接な関係性を有している。

・市基本方針1：市民の文化活動を支援し、次世代への継承を進める

⇒ 事業計画ミッション「新潟の文化を次世代へ継承し市民の誇りにつなげる」

同 最終アウトカム【③：育てた文化を次世代へ、そしてシビックプライドへ】

・市基本方針2：新潟市らしい文化の発信と交流により世界の中での存在感を高める

⇒ 事業計画ミッション「新潟から全国へ 世界へ発信」

同 最終アウトカム【①：新潟の、ひいては日本の存在感を高める】

・市ビジョン基本方針3：文化の力を活用して都市の活力創出と成長を目指す

⇒ 事業計画ミッション「芸術文化を通じて 生きる力 を育む」

同 最終アウトカム【②：より良く生きる社会をつくる】

なお、市ビジョンにおいて当館について触れている点も非常に多い（同3）。加えて令和元年度に新潟市が実施する「第46回市政世論調査」のテーマとして当館の自主文化事業が内定（同4）している。設問は本事業計画の「3つの最終アウトカム」に対応し、調査結果から最終アウトカム発現に有効な取り組みがわかる形としている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

上記の市ビジョン基本方針1には「文化的、社会的」、同基本方針2には「文化的、経済的」、同基本方針3には「社会的、経済的」意義があり、これに関連する本助成金の事業計画も同様であるが、より明確化するために、事業計画における「13の中短期アウトカム」を達成すれば各意義が認められるよう「目標」「指標」を設定している。

平成30年度は、社会的意義のある中短期アウトカムである「アウトリーチ手法の普及（前述）」や「アマチュア演奏家の増加」、文化的、経済的意義のある「舞台芸術がより身近になる」「新潟のプレゼンス向上」に取り組んだ。いずれも目標を達成（同2）しているが、順次取り組みを増やしつつ継続を図る。

なお、経済的意義の取り組みとして、中短期アウトカム「交流人口の拡大」「地域経済にプラス」を掲げ、これを達成する「目標」として【遠方からお客を呼ぶ、音楽フェスティバル等の実施】「指標」として「新潟市外からの集客20%以上」を設定し、市をはじめとする関係者と協議を進めているが、平成31年4月の新潟市長記者会見で市長より「新たな音楽祭を検討中」の旨、発言があった（同5）。

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

最終アウトカムである「①：新潟の、ひいては日本の存在感を高める」「②：より良く生きる社会を作る」「③：育てた文化を次世代へ、そしてシビックプライドへ」を達成するために「13の中短期アウトカム」「2つの内部変化」を設定し、それぞれに「目標」「指標」「対象事業」を設定している。

平成30年度は、4つの中短期アウトカム、2つの内部変化に取り組み、概ね目標を達成（エビデンス資料2）し、最終アウトカム発現に向けて、順調に前進している。

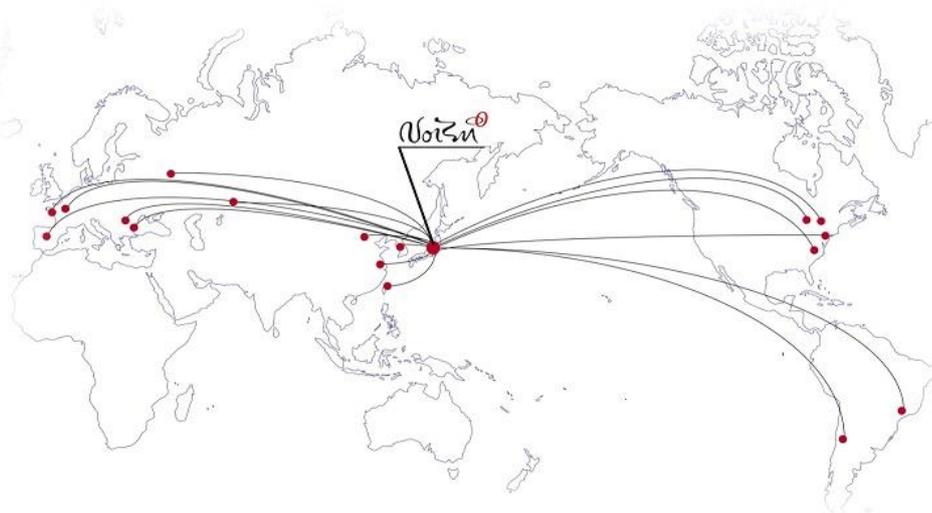
①について、Noismの公演活動のこれまでの実績は国内29都市、海外11か国21都市に（同6・7）、リ्यूとぴあプロデュースの演劇公演は国内79都市に（同8～10）及び、確実に発現している。

また翻ってこのことは③のシビックプライドを高める要因となっている。Noismには当館の外部にサポーターズが設立され、「Noismは市民の誇り」として活発に活動している。（同11）

③については、小学生から高校生までを対象とした演劇教室（同12・13）と、オーケストラ・合唱・邦楽合奏という3つの音楽教室（同14）というジュニア育成事業を20年以上に渡り継続していることで、着実に文化の次世代への継承をはかっている。

②については、ジュニア育成事業が、未来の社会を担う青少年の心的成長も促している（同15）ことと、新潟市の自殺者数の減少率が全国平均や新潟県より良い（同16）ことの因果関係を今後分析していきたい。

なお、Noismは本助成金の事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」のリングの一つである「舞踊事業」のコア事業であるが、他の舞踊事業、他リングのコア事業に比して多額の費用と多大な労力を投入している。「ファイブ・リングス」内の各事業のバランスも重要であるため、今後の活動について、当館の設置者である市も交えて協議を行っている。



自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

「ファイブ・リングス・プロジェクト」の各コア事業を当初計画通りの事業期間、事業費で適切に履行すること（エビデンス資料17・18）により、良好なアウトプット（同19～35）となっている。

以下 ① アウトプットの概要
② アウトプットを高めるための取組

1. 音楽事業「東京交響楽団新潟定期演奏会」

①【入場者数】8,525人（目標：8,100人）

【満足度】平均98%（目標：90%）

【東響アウトリーチ】60回（目標：40回）

②水準の高い演奏と定期的なプログラムの提供に併せて、誰でも聴けるロビーコンサート（無料）の実施やオーケストラと共演できる「にいがた東響コーラス」の活動など、鑑賞機会の提供だけでなく普及啓発と人材育成という意義も併せた環境を作っている。

2. 舞踊事業「Noism事業」

①【入場者数】5,577人（目標：5,026人）

【満足度】平均96%（目標：90%）

【WS回数】17回（目標：5回）

②劇場専属による年間を通しての作品創作と人材育成という点から、劇場法に則した先駆的事业と評価を得ている。市民支援組織「Noismサポーターズ」の協働はSNS等での宣伝活動やフリーペーパーにより有効な取組みになっている。

3. 伝統芸能事業「能楽鑑賞会」

①【入場者数】874人（目標：534人）

【満足度】平均91%（目標：90%）

②プレ解説講座、能楽のWS、学校へのアウトリーチで普及啓発活動や実演者の組織とも連携を行なっている。

4. 育成事業「ジュニア音楽教室事業」

①【参加者数・入場者数】3,275人（目標：3,757人）

【満足度（公演）】平均98%（目標：90%）

【団員数】262人（目標：250人）

②市内催し物での招聘出演により認知と連携を図り、また保護者会の自主的な活動により事業を充実させている。また家庭、学校に続く第3のコミュニティとして社会的包摂の役割を果たしている。

5. 演劇事業は平成30年度の助成対象外

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

本助成金の事業計画「ファイブ・リングス・プロジェクト」の各リングのコア事業は、全国で唯一（或いはほぼ類例を見ない）の極めて突出したものである。

舞踊のコア事業であるNoismが我が国公共ホールで唯一の専属コンテンポラリー・ダンス・カンパニーであることは広く知られている（エビデンス資料36～38）が、他のコア事業もこれに勝るとも劣らないオリジナリティを有している。

音楽のコア事業である東京交響楽団新潟定期演奏会は、在京プロオケが本拠地を数百km離れて100回を超える演奏会を開催しており、これは我が国の歴史上初めてのことである（同39）。

演劇のコア事業であるプロデュース公演は、一公共ホールがプロデュースした演劇公演が日本全国での上演を達成する勢いで公演を重ねている（同40～42）。

育成事業のコア事業であるジュニア事業は、オーケストラ・合唱・邦楽合奏という三つのジュニア音楽教室を運営し、相互交流を含む活発な活動を行っており、他例を見ない（同43）。

伝統芸能事業のコア事業である能楽では、硬軟取り混ぜ幅広く展開している館は、少なくとも首都圏以北の東日本には存在しない（同44）。

Noismは芸術監督金森穰（当館舞踊部門芸術監督も兼務）が率い、東京交響楽団は、当館と準フランチャイズ契約を締結のうえ桂冠指揮者秋山和慶（当館音楽部門芸術監督）が率い、プロデュース公演は演劇界に幅広い人脈を持つプロデューサー笹部博司（当館演劇部門芸術監督）が指揮しているが、これは当館と極めて緊密な協力関係の上に機能している。

当館には優れた舞台上演を可能とする3つの専門ホール（劇場・コンサートホール・能楽堂）の集合体である施設機能があるうえ、運営する専属の企画・技術スタッフを常勤雇用し、ノウハウを蓄積している。

これらが三位一体となり高い成果を生んでおり、Noismによる新作世界初演や東京交響楽団によるプロ・オーケストラによる100曲以上の当地初演が行われ、独創的な舞台芸術を頻繁に体験できる環境が新潟に生まれている（同36～39）。

またジュニア事業では初心者も受け入れてステップアップするカリキュラムを整えて「新潟方式」と呼ばれるなど、他所に一つの規範を提示している。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

Noismは、芸術監督金森穰を初めとして多くの賞を受賞しており、海外公演も11カ国21都市55公演と多く（エビデンス資料36・45）国内外で非常に高い評価を得ている。

東京交響楽団は、国内の主要な音楽賞をほぼ全て受賞しており（同46）、特に近年は好調で、年間入場者数の増加は着実なファンの増加を示している（同47）。

演劇プロデュースも、高い評価を得ている証左として、各地で再演されている。

ジュニア音楽教室も数は多くないがホール外での活動を積み重ねてきており、重要な国際会議でのレセプション演奏など、国際交流と世界への文化発信の一翼を担っている（同43）。

これらの活動は、数多くのマスコミ報道（同48～64）や、延20万人以上の直接受益者を作り出しているNoism、35万人以上の入場者等を積み上げている東京交響楽団新潟定期演奏会の成果等によって、当館の知名度及び評価の向上につながっている。

だが、それらの高い評価・実績に安住することなく、公演毎のお客様アンケート（同65～67）、ジュニア音楽教室参加者へのアンケート（同68・69）及び保護者の声を受け止めるコミュニケーション（同70）、ウェブサイトでの情報発信、市文化政策担当部局との頻繁な意見交換など、当館が独りよがりにならないための「他者からの視点」を常に意識し運営している。

一例をあげると、ジュニア音楽教室の参加者は、80%が「とても楽しい」と答え、79%が家での練習を「よくする」「ときどきする」と答えており、子ども達に高いモチベーションを与える運営ができています。

演劇プロデュース 公演開催地



自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

本助成金の事業計画において、アウトカムを発現させるために必要な内部変化として「専門人材（職員）の確保」「財源の多様化」を掲げている。

前者においては、経営戦略を構築するために【本助成金の事業計画を内包する館の業務計画を将来を担うプレイングマネージャー職である各課長が中心となり策定（エビデンス資料71～73）】【大学の専門講座の知見を活かした評価制度の見直し（同71・74～76）】を行った。

また【准認定ファンドレイザー資格を3名の職員が取得（同77）】【職員の積極的な外部研修参加（同78）】も行っているが【60%を超える高い正規雇用率（同79）】により、将来を見据えた人的投資が可能となっている。

後者においては、准認定ファンドレイザー資格をもつ職員を中心に【Noism活動支援制度の見直し（同80）】【ホールスポンサー制度の策定（同81）】を行った。また、館の設置者である【新潟市からの財政支援（同82）】は安定的に推移している。

加えて、外部とのネットワーク強化にも取り組んでおり【他の劇場等との事業連携（同75）】に留まらず【職員の講師派遣（同78）】、民間企業の【東宝（株）との演劇共同製作（同83）】を行った。

経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を投入し実施する文化事業で『最終アウトカム』の発現に向けて、順調に前進していることは有効性の自己評価で述べたとおりだが、「モノ」は館の指定管理者となることで「ヒト・カネ・情報（ネットワーク）」は、上記のとおり獲得に努めている。

平成30年度は本助成金の事業計画の1年目ということで、PDCAサイクルのPD部分に注力したが、2年目以降は、ロジックモデル（インプット→アクティビティ→アウトプット→アウトカム・インパクト）等を用いてCAを行い、組織活動を持続・発展させるために必要な経営資源の獲得、改善、強化を図る。

